

風のように

甘木教会



主任牧師：崔大凡

牧会委嘱牧師：竹田孝一

神に愛されている兄弟たち、あなたがたが神から選ばれたことを、わたしたちは知っています。……そして、あなたがたはひどい苦しみの中で、聖霊による喜びをもって御言葉を受け入れ、わたしたちに倣う者、そして主に倣う者となり、マケドニア州とアカイア州にいるすべての信者の模範となるに至ったのです。主の言葉があなたがたのところから出て、マケドニア州やアカイア州に響き渡ったばかりでなく、神に対するあなたがたの信仰が至るところで伝えられているので、何も付け加えて言う必要はないほどです。

テサロニケ第一の手紙 1：4－8

彼らは、「皇帝のものです」と言った。すると、イエスは言われた。「では、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。」彼らはこれを聞いて驚き、イエスをその場に残して立ち去った。

マタイによる福音書 22：21－22

【説教要旨】「キリストに倣いて」

本日、讃美しました讃美の歌詞者、江口武憲牧師、ブラジル聖公会・大キャノン弓場繁牧師らは、福音をよく語ることは、政治、経済をよく知っておくべきだと言われていた。実際、弓場繁司祭は、社会学を大学で学び直したと聞いています。弓場司祭と付き合いながら、この世を生きつつ、この世を生きないということを生き方を肌で感じていました。

「彼らがデナリオン銀貨を持って来ると、イエスは、『これは、だれの肖像と銘か』と言われた。彼らは、「『皇帝のものです』と言った。」

銀貨、経済です。銘は、「皇帝」、政治です。経済は、政治に裏打ちされている。政経、政治と経済、まさに私たちが生き

ているこの世という社会です。信仰者であっても生きていくの政治と経済によって私たちの生活は左右され、影響を受けます。世界の劇的大変化の中で、PCの発展、インターネット、人工知能AIと技術的革新、発展からくる歪（サイバー攻撃で大企業の個人情報への流出、これがAIを使っていたというこでした）、不安、ペンギンの住処の喪失とは、地球温暖化による地球環境危機、戦争の拡大という人としての人権の抑圧、生命の危機の出来事の中で、これを克服していくのは政治であり経済です。だから世界は政治が大きく動き出し、経済が大きく変化しようとしていることがいたるところで見えています。危機はますます深くなっています。私たちの幸せを政治と経済という具体的なものをもって約束しなければいけないのにもかかわらず逆の方向にあります。歴史が教えることは、この世において、目に見える、触れるものが私たちを幸せにし、不安を決して取り除くことはないと教えてくれています。

10月には私たちの教会の創立者ルターの信仰を学ぶことにしています。

「では、皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返しなさい。」という言葉から、ルターの思想に「二王国論」というものがあります。神の統治は教会（霊的統治）と政治（世俗的統治）があると言いました。それは、宗教と政治は違い、宗教は霊的なことを求めるものであって、政治と関わりを持つべきでないという極論にまで理解されました。

しかし、ルターはそう言っているのでしょうか。

「ベルグラフ（1884～1959）は、ノルウェーのルター派の指導者でした。彼はルターの『二王国論』を『教会対国家』と単純化するのではなく、教会（霊的統治）も政治（統治）も神の設定による二つの王国（統治）と位置づけ・・・」（ルター入門 江口再起 YOBEL. Inc）と述べています。霊的統治は、深く政治的統治とともにあるということです。簡単にいえば、教会は世と共にあって、同時に世は教会と共にあるということです。政治的な営みは霊的営みの中で捉え直さなければいけないという

ことです。

「ルターの信仰に生きる ルーテル教会 その教えの特徴」(ルーテル神学大学 ルター研究所 聖文舎) 19項「信仰とこの世における責任—社会倫理と二王国論」で、「教会が伝える福音は人々の信仰によって受け入れられますし、この世を治めることは神の正義、律法を基として、人の理性によって判断されます。神を信じる信仰によって支えられ、目覚めされた理性が愛によって働いていくことが求められるのです」、そして、こう結びます。「この世界は全く悪であり、汚れたもので、早くそれを去って神のもとに行き、あるいはこの世界を終わらせて神の支配が行われるように、と考えるのではなくて、被造物を愛しその保全を委ねられた神の委託に応えるように、また人間が自分たちの平和な交わりを世界規模で考えていくためにも、私たちは何が神の求めであるかを問い続け、信仰が理性を働かせ、愛が正義を促して、他者のために仕えていくようにしなければなりません」。

AIをはじめ人類はテクノロジーの発達を極めています。しかし、今や地球規模で多くの人が苦しんでいます。私たちの存在を脅かされる不安に満ちています。今、私たちは、先の見えない闇、災いの危機の中にいます。しかし、政治の闇も災いも神が支配されているのです。単に政治的支配において解決されていくものではありません。政治的闇も、災いにも神はおられ、神は支配され、導かれて、私たちの存在をたらしめてくださいます。私たちは、「皇帝のもの」だけで、自分の存在を存在たらしめていませんし、同時に霊的支配だけで自分の存在を存在たらしめていません。皇帝のものは皇帝に、神のものは神に返えせと言われる時、何が神の求めであるかを問い続け、信仰が理性を働かせ、愛が正義を促して、他者のために仕えていくようにと私たちに促しています。

イエス・キリストこそ、ここを生きぬかれたのです。私たちはキリストに倣いて、どこまで他者に仕えていくことが私たちの存在です。

牧師室の小窓からのぞいてみると

「AIと人間 知の責任について 三宅善信 集広社」



先週、日本でいっきに情報漏洩のニュースがあり、私たちの生活を脅かしている。

まずは自分の情報は漏洩しているという前提で、落ち着いて対処するということである。いやな複雑な世界になった。

神道家・三宅善信氏は、今の世界を次のように書いています。

「生成AIの問題は単なる技術論でも、便利さをめぐる消費社会的な話題でもない。それは活版印刷が聖書解釈の権威を揺るがし、テレビが宗教的言説を感情化し、インターネットが情報の選別権を不可視化した、その延長線上に現れた、いわば『第4の宗教的衝撃』と呼ぶべき出来事である。ただし、ここで起きている衝撃は、さらに一步進んでいる。活版印刷は人々に読むことを促し、テレビは人々に感じることを強く迫り、インターネットは人々に探すことの間を与えた。これに対して生成AIは、人々に対して、すでに整理された理解を受け取ることへと誘う。知の独占は崩れ去ったのではなく、そのつど媒体を変えながら、新たな姿で組み替えられてきた。そして、組み替えを、これ以上に親密で、これまで以上に自然な対話のかたちで進める」

そこで三宅善信氏は、こう呼びかける。「人間とは何か、神とは何か、知とは何のためにあるか」と。これは、聖書が一環と問いつづけていることではないだろうか。



園長・瞑想？迷走記。

「神は子どもを与え、これに糧を与えたもうだが、それは、あなただけが彼らを好きなように扱い、あるいは、この世の華美に向けて教育するためではない。」(「人々は子どもたちを学校へ送るべきであるという説教」(ルター)1530年)とルターが言っていることは、現代にも通じるのではないだろうかと思う。しかし、現実には自分の都合よく子どもを教育していこうとする自分があることもある。この誘惑には陥らないためにも、「・・・であるべきだ」と善意の思いといつも戦い、あるがままの子どもと一緒にいることだと思いうようにますますなっている。カリキュラムなんて必要ない、一緒に今日、楽しく過ごすのが幼児教育だと思うのだが。

日毎の糧



聖書：全地よ、御前におののけ。

（国々にふれて言え、主こそ王と。世界は固く据えられ、決して揺らぐことがない。主は諸国の民を公平に裁かれる。天よ、喜び祝え、地よ、喜び躍れ。野とそこにあるすべてのものよ、喜び勇め／森の木々よ、共に喜び歌え 主を迎えて。主は来られる、地を裁くために来られる。主は世界を正しく裁き／真実をもって諸国の民を裁かれる。詩篇96：9～13



ルターの言葉から

豊たとえ明日が終わりであっても、今日、私はりんごの苗を植える。（ルターの言葉と言われている。）

有名な詩篇96篇は、ヤーウエ（神）の讃歌のなかでも、堂々としている讃歌である。神の統治がユダヤを超えて、全世界へ広がっていくことを示す。ヤーウエ（神）の讃歌はイスラエルの救いを讃美するのであるが。ここでは、イスラエルの救いでなく全世界の救いが語られている普遍性が強調されている。結びの部分（11節～12節）は、世界を裁くヤーウエ（神）として讃美され、ヤーウエ（神）の統治は、イスラエルという世界から被造物、全世界と広がっていく。それは単なるイスラエルの救いだけでなく諸民族を含めた全世界の人々の救いである。

「主を迎えて。主は来られる、地を裁くために来られる。主は世界を正しく裁き／真実をもって諸国の民を裁かれる。

96:13」というヤーウエ（神）の再臨は、キリスト教徒にとっては、福音は、主・イエス・キリストであり、再臨の主となる。現代の劇的社会の変化の中で、政治は不正が満ち、多くの人が苦しんでいる時代だからこそ、ヤーウエ（神）、すなわち主・イエス・キリストの再臨、支配、神の愛の支配になることを熱く求められている祈りが教会で充満している。「マラナター主よ、来てください」讃美歌368がこの詩篇を讃美です。

祈り：マラナター主よ、来てくださいと祈りを続け、主の支配が実現されるように今日を生きることが出来ますように。

アーメン。

甘木通信

順境には楽しめ、逆境にはこう考えよ。
人が未来について無知であるようにと
神はこの両者を併せ造られた、と。

コヘレト7：14



「終末」

キリスト教の歴史的基本は、この地上に来られた（クリスマス）イエス・キリストが、終末に再び神に遣わされ地上に来られ、神を信じる人を救ってくださるということです。キリスト教は、ある意味では終末信仰が強い宗教です。

「それらの日には、このような苦難の後、・・・・人の子が大いなる力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを、人々は見る」（マルコによる福音書 13：22）。

「終末の徴」の預言は、イエスの名を語り、人々を惑わし、戦争があり、人々はいがみ合い、地震、飢饉が起こり、苦難が起これと言っています。まさに「終末の徴」のような現代世界が広がっているのではないのでしょうか。

では、終末は近いのでしょうか。コヘレトは、「人が未来について」は「無知であるようにと」と諭すのです。これは聖書においても、弟子がイエスさまにいつ再び来られるのかと問うたとき、イエスさまは次のように答えられます。

「父がご自分の権威をもってお定めになった時や時期は、あなたがたの知るところではない。（使徒言行録1：7）

コヘレトは終末を嫌います。「人が未来について無知である」という強い思いがあります。私たちはこのコヘレトの終末嫌いから学ぶべきではないのでしょうか。今も未来も作られるのは「神はこの両者を併せ造られた」という神です。今、だからいたずらに終末信仰に煽られることなく「たとえ明日が終わりであっても今日リンゴの苗を植える」と心落ち着かせていくことではないかと思います。

（甘木日記）土）幾つかの大手の会社の情報漏洩があり、身近な生活にも影響を与え始めた。良心なき人類は滅びる。日）砂場で子どもらが遊べるように草をみなさんと抜く。月）祝日。火）二人の子どもが職員室にやってくる。どうも全体に落ち着きがない。連休の後の時間の特徴か。水）一日、日善幼稚園。木）松崎保育園の第2園庭の祝福式。夜、東京。金）管理者会議。胃の痛むことばかり、明日は理事会、評議員会。

おまけ・牧師のぐち（続日記）牧師だって神さまの前でぐちります。
はぐちらない聖人（牧師）もいます。

土）朝、H幼稚園情報漏洩の可能性があり対応について問い合わせがある。矛盾するがこういうときどうするのかAIに聞いて、プログラムイングをしている専門家に聞くとAIが発達した今、防ぎようがない、漏洩しているかもしれないと認識し、怪しいメールに返信せず、電話にはでないということ。当り前といえば当り前。個人のメールに国税庁から還付金というメールが繰り返し増えてきた。消去。



いやな時代だ。キリスト教講座。明日の詩篇が23編であったので「ダビデ」について学ぶ。「ルーテル教会の讃美歌」は次回に変更。温泉に行き、早めに寝る。日）庭掃除、ZOOM礼拝のPCのセットしてくださるKさんが休みで、久しぶりに自分でセットするが、仕方を忘れていて不安。忘れることが多くなった。礼拝後、みんなで掃除。いつ来るかもしれない子どもたちが安心して遊べるように砂場の整備も。終末を待つ姿勢。「たとえ明日が終わりであっても今日、砂場を整える。」月）祝日、週末はH幼稚園の管理者会議、理事、評議員会のために主日の準備をする。休むときに休まなければと思い、抱き枕を買いにショッピングセンターに。歩くもきつい。火）重い体で、幼稚園に行く。連休明けの今日は子どもたちも、先生方もいつものリズムがとれずどこか落ち着かない。ここはどっしり構えて、座力で見守る。怪我もなく無事に終わる。木曜日の夜から土曜日の夜までH幼稚園の仕事で出かけるので、幼稚園の事務作業。新法律施行の準備、11月の「園だより」の第一原稿を作る。やはり体の調子は相変わらずおかしい。すべてに時あり、神に委ねよう。そういえばテレビの寿命が尽きた。さっそく電機屋さんに来てもらう。1ヶ月後に到着。水）子どもの礼拝、諸事務、園庭の春花壇にむけての準備。まだ夏の花があり、蛍草にいたっては夏を越し、植え替える。このあと園芸のYouTubeを見ると、蛍草は、根がデリケートなので移植の時は気を付けた方が良いとのこと。失敗か？職員会議を終えて、決まったことをすぐに実行して、準備をする。これから忙しくなる。預かり保育が終わるまでに幼稚園にいて帰宅。木）松崎保育園の聖書の学び、オバデア書。こども礼拝。礼拝後、いつも前副園長が、聖壇に飾られた花の説明



をする。クレマチスは分かったが、「はなどんや アソシェ」から）
が、猫じゃらしのような花の名は、セロシア シャロンという花である。↑和名・



「のげいと」だと聞く。シャロンとは「緑ゆたかな平野」という意味だそうです。讃美歌「シャロンの花」の花は「むくげ」だそうだ。そういえば、教会の向かいの家の庭にむくげの花が咲いている。第2園庭が完成したので、園児と一緒に聖別の祈りをささげる。甘木教会に行き、水撒き。夕刻、東京に向かう。金）H幼稚園に行く前に息子夫婦に家内の手作りのお菓子を届けにいく。大人になっても子どもは可愛くて、H幼稚園の管理者会議。胃が痛む。ここから「風のように」送信